

10月13日 「ノーベル賞」

先週、ノーベル賞の発表がありました。日本人の科学者、研究者が受賞されたということで、話題になったので、今日はそのことをお話します。

ノーベル賞というのは、ダイナマイトを発明してお金持ちになったアルフレッド・ノーベルという人が、「自分の財産を使って、世界中の人々を幸せにしたり、世界を良くしたりした人を表彰してほしい」という遺言を残したことから、1901年に始まりました。

今年のノーベル化学賞は、日本人の碓合憲三（そあいけんそう）さんという方が受賞されました。碓合さんの研究を分かりやすく説明するための図をAIに作ってもらったのですが、それでもまだ、難しいですね。分子、と

いうのは、世の中にあるものを、細かく、もっともっと細かく、限界まで小さくしたものであると考えてください。その分子の特徴を使うと、薬などを作ることができるのですが、その分子には、ほとんど同じ形だけど、右向きと左向きのものがあるのだそうです。中には、

「右向き」のものは薬になり、「左向き」のものは毒になるものがあるそうで、片方だけを選ぶのがすごく難しかったけれど、碓合さんの研究で片方だけを選んで増やす方法を見つけることができたということです。

もう一人、ノーベル物理学賞は、アメリカ人のフランシス・ハルツェンさんという方が受賞されました。この方の研究について、先週、2年生が見学した千葉市科学館に展示されていました。千葉大学の2人の研究者がこの研究に協力し、重要な役割をはたしていたということなのだそうです。

こちらの研究は「ニュートリノ」と「アイスキューブ」というものが関係するもので、何曲の氷の中に2.5kmの穴を掘り、大きなセンサーを5000個以上設置し、宇宙から飛んでくる「ニュートリノ」という目に見えない線の様子を捉える実験をしました。この研究を進



めると、宇宙はどのようにできているのか、宇宙の始まりはどうなっていたのか、などという、とてもスケールの大きなことを解明することにつながるそうです。

とても小さなものを調べる、宇宙のような大きなものを調べる、という違いはありますが、共通しているのは、す

ぐに役に立つものではないかもしれないけれども、分からないことをとことんまで調べて、分かるようにしていきたいということです。

私たちが、ここから学べるのは、「今すぐに結果が出なくても、がんばることは大事だね」ということだと思います。ノーベル賞の研究は、それで、すぐにお金が儲かるような製品ができあがるというものではありません。「私たちも、勉強をしていると、この勉強は何の役に立つのだろうか」と思うことがあるかもしれませんが、でも、すぐにそれが分からなくても、すぐに結果がでなくても、いずれ自分のため、みんなのためになる、と思ってがんばることは、とても大切なことだと考えます。



いま けっか
今すぐに結果がでなくても
がんばることは
大事だね

